

その“境界”は乗り越えられるのか

# 壁の外側と内側

パレスチナ・イスラエル取材記

日本人ジャーナリストが現地で目の当たりにした10.7の「その後」

監督・撮影・編集・製作：川上泰徳 編集協力：大重裕二 整音：小川 武 製作協力・配給：きろくびと 2025年 | 日本 | カラー | 5.1ch | 104分

© Kawakami Yasunori

2026年 4月26日(日) 午後2時～

開場 1:30

アンフォーレ1階ホール

安城市御幸本町504-1

上映協力金 1,000円  
(障がい者&18才以下は無料)

上映会の収益金は人道支援  
として国連 UNHCR 協会  
に寄付します

後援/安城市・安城市教育委員会

主催/上映会 Anjo 090-1737-8429(天野)

※事前申し込み不要



2023年10月7日、イスラエルに「壁(分離壁)」で封鎖されたガザ地区からイスラム組織・ハマスが越境攻撃を行い、それに対するイスラエル軍による「壁の向こう」へのすさまじい報復攻撃。死者は5万人を超え、そのうち1万8千人以上が子どもという惨状で、停戦が見えない中、その数はいまま増え続けている。

外国人ジャーナリストがガザに入ることが困難な中、2024年7月、同じく「壁」で分離されたパレスチナ・ヨルダン川西岸地区に、ボーン・上田記念国際記者賞の受賞経験もある中東ジャーナリストの川上泰徳が取材に入った。

パレスチナ側のベツレヘムからヘブロンへ、そして、今年3月の米国アカデミー賞で長編ドキュメンタリー映画賞を受賞した『ノー・アザー・ランド 故郷は他にない』でも舞台となったマサーフェル・ヤッタにも入り、イスラエル軍による攻撃・破壊やユダヤ人入植者の暴力の激化を目の当たりにする。一方、イスラエル側では国民の多くが「壁」の外側の惨状に目を向けない中、兵役を拒否する三人の若者がいた。中東を見つめつけたジャーナリストがいま伝えたい、パレスチナとイスラエルの“現在”とは――。

## 「なぜこの戦争が続くのか。」 10.7後のパレスチナ・イスラエルを この目で確かめたいと思った――



### パレスチナ・イスラエル紛争の歴史

- 1947年 国連パレスチナ分割決議
- 1948年 イスラエル建国宣言、第1次中東戦争：イスラエル独立戦争、ナクバ<大破局>パレスチナ難民70万人が流出
- 1967年 第3次中東戦争：ヨルダン川西岸、ガザ、東エルサレムのイスラエル占領始まる
- 1987年 第1次インティファダ始まる
- 1993年 PLOとイスラエルがオスロ合意調印
- 1994年 西岸とガザでパレスチナ暫定自治始まる
- 2000年 第2次インティファダ始まる
- 2006年 パレスチナ自治評議会選挙でハマス勝利
- 2007年 ハマスがガザを実効支配：西岸を支配する自治政府と分裂
- 2014年 イスラエル軍の大規模なガザ攻撃
- 2023年 ハマスによるイスラエルへの越境攻撃、イスラエルの報復攻撃始まる

### 川上泰徳 (かわかみ・やすのり) プロフィール

1956年生まれ。元朝日新聞記者。中東アフリカ総局長、編集委員・論説委員など歴任。カイロ、エルサレム、バグダッドに滞在し、パレスチナ問題、イラク戦争、「アラブの春」、シリア内戦などを取材。中東報道で2002年度ボーン・上田記念国際記者賞。2015年からフリーランス。著書に『シャティーラの記憶 パレスチナ難民キャンプの70年』(岩波書店 2019)、『戦争・革命・テロの連鎖 中東危機を読む』(彩流社 2022)、『ハマスの実像』(集英社新書 2024) など。

## 壁の外側と内側 パレスチナ・イスラエル取材記

監督・撮影・編集・製作：川上泰徳 編集協力：大重裕二 整音：小川 武 宣伝美術：追川恵子 製作協力・配給：きろくびと  
2025年 | 日本 | カラー | 5.1ch | 104分 ©Kawakami Yasunori X@out\_inthewall out-in-thewall.com

### 『壁の外側と内側 パレスチナ・イスラエル取材記』上映会

当上映会の収益金は国連 UNHCR 協会に寄付します

日時 ▶ 2026年4月26日(日) 午後2時上映開始 (30分前開場)

会場 ▶ アンフォーレ1階ホールにて 安城市御幸本町504-1

上映協力金 ▶ 1,000円 (障がい者&18才以下は無料) ※事前申し込み不要

後援 ▶ 安城市・安城市教育委員会 主催 ▶ 上映会 Anjo 090-1737-8429 (天野)

上映会 Anjo 公式 LINE



今後の上映会情報をご案内します。ぜひ、ご登録下さい！